

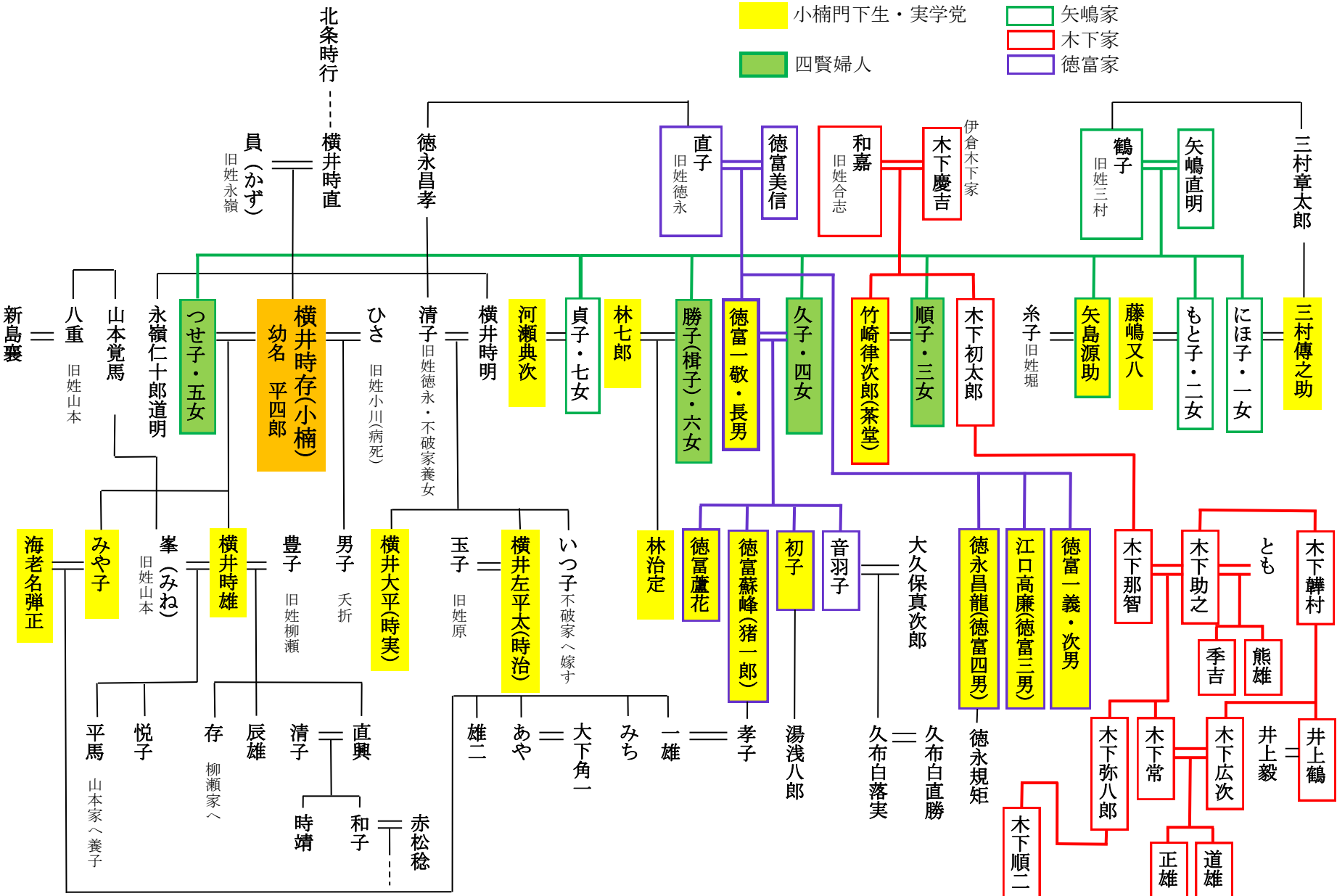
# 横井小楠関係家系図 矢嶋家・徳富家・木下家

## 凡例

小楠門下生・実学党

矢嶋家  
木下家  
徳富家

四賢婦人

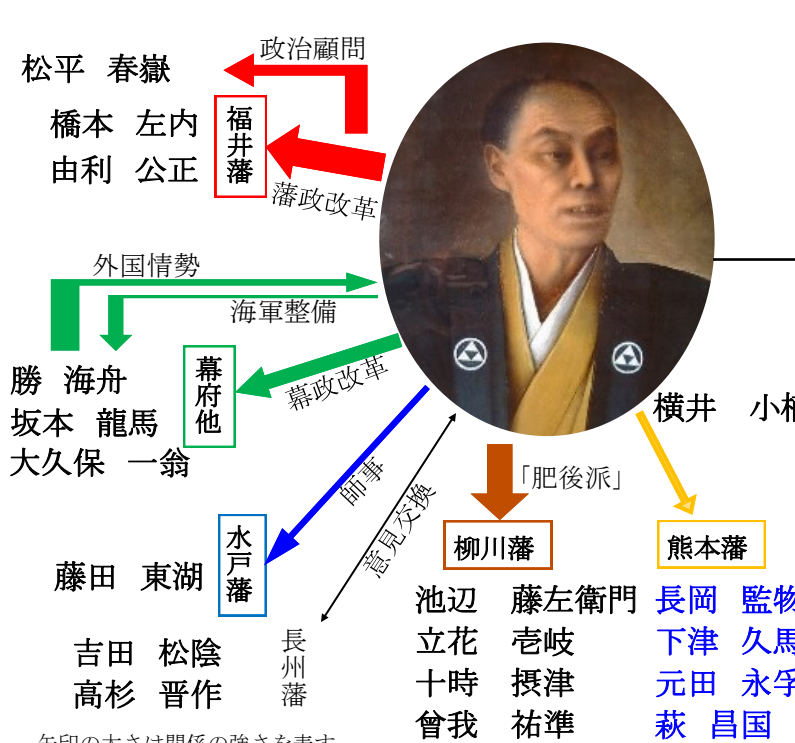


## 横井小楠略年表

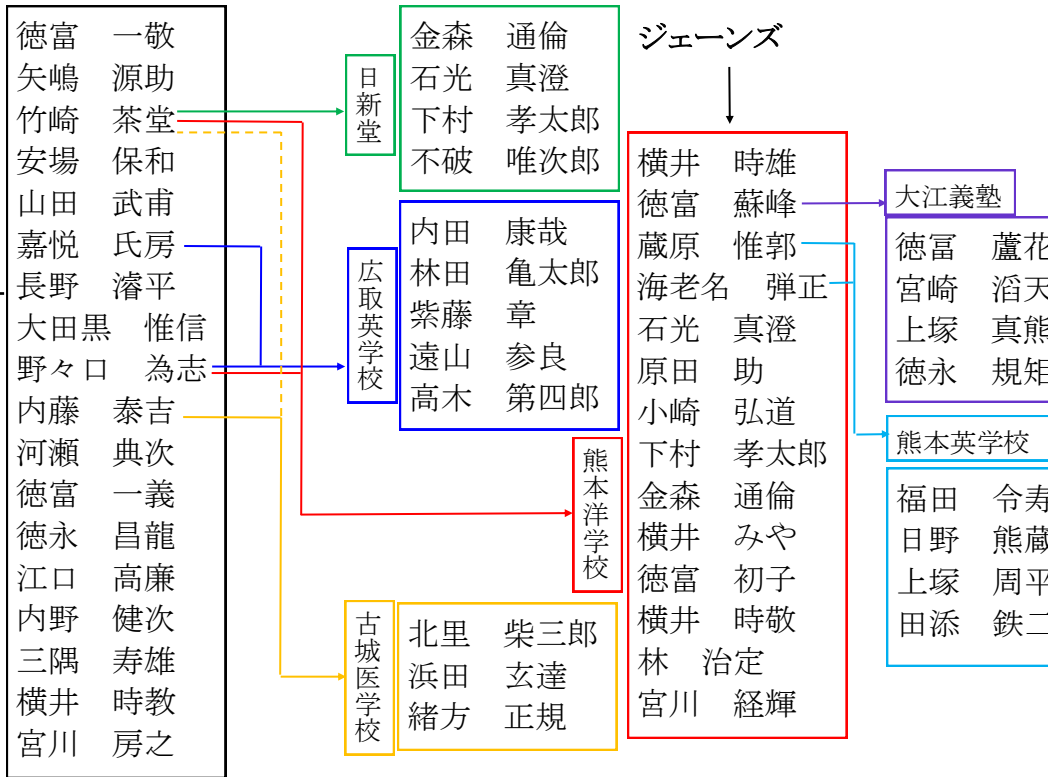
(年齢は数え年です)

西暦	年号	年齢	出来事	日本の出来事
1809	文化6	1	8月肥後藩士横井大平時直の次男として内坪井に生まれる	将軍11代家斉 間宮林蔵、間宮海峡発見
1816	文化13	8	この頃時習館に入学	
1822	文政5	14	水道町(現鶴屋パーキング付近) に転居	(1821)伊能忠敬日本地図完成
1833	天保4	25	6月時習館居寮生となる	天保の大飢饉
1836	天保7	28	4月講堂世話役を勤める 10月藩主斉護より紋付上下下賜	
1837	天保8	29	2月時習館居寮長となる <b>下津休馬</b> とともに居寮新制度建議	大塩平八郎の乱 13代将軍家慶
1839	天保10	31	3月藩命により江戸游学 4月林大学頭に入門 <b>藤田東湖・川路聖謨</b> らと交流	蛮社の獄
1840	天保11	32	2月酒失事件。帰熊を命じられる 12月帰熊。逼塞を命ぜられる	清・英国のアヘン戦争
1841	天保12	33	<b>長岡監物、下津久馬、元田永孚、萩昌国</b> らと研究会を開く。「 <b>実学党</b> 」の起こりとなる 『時務策』を起草して藩を批判	天保の改革
1845	弘化2	37	この頃私塾開く。門人 <b>徳富一敬・矢島源助・竹崎律次郎</b> ら	
1846	弘化3	38	水道町より相撲町に転居。	
1847	弘化4	39	手狭になった家塾を新築。「小楠堂」と命名 門人 <b>嘉悦氏房・長野藩平・河瀬典次・安場保和</b> ら20人	
1849	嘉永2	41	全国遊歴中の福井藩士 <b>三寺三作</b> 小楠堂をたずねる	(1848)フランス革命
1851	嘉永4	43	2月諸国遊歴 10月帰熊	
1852	嘉永5	44	3月福井藩の求めで『 <b>学校問答書</b> 』贈る	
1853	嘉永6	45	1月『 <b>文武一途の書</b> 』を福井藩に贈る 10月『 <b>夷虜応接大意</b> 』著す <b>吉田松陰</b> 、小楠堂を訪ねる	ペリー浦賀来航 ロシア使節プチャーチン長崎に来航
1854	安政1	46	9月兄時明死去。家督を継ぐ	日米和親条約締結
1855	安政2	47	5月沼山津に転居「四時軒」と命名 この頃から開国論唱え、長岡監物と袂を分かつ	
1856	安政3	48	矢島源助の妹津勢子(つせ子)と再婚	
1858	安政5	50	4月福井藩主 <b>松平春嶽</b> の招きで福井へ 12月弟永嶺仁十郎死去のため帰熊	井伊直弼大老就任・安政の大獄 14代将軍家茂
1859	安政6	51	5月福井へ帰任、殖産・貿易に努める 12月母・員(かず)死去のため帰熊	<b>橋本左内・吉田松陰</b> ら死罪
1860	万延1	52	3月福井へ帰任『 <b>国是三論</b> 』著す	桜田門外の変・和宮降嫁
1861	文久1	53	4月松平春嶽の招きで江戸へ <b>勝海舟・大久保一翁</b> らと交流	
1862	文久2	54	政事総裁職(大老級)・松平春嶽のプレーンに 『 <b>国是七条</b> 』著し、 <b>徳川慶喜</b> と対面 12月士道忘却事件	徳川慶喜、将軍後見職になる 参勤交代の緩和
1863	文久3	55	8月沼山津に帰る 12月士道忘却事件の咎で士籍剥奪	福井藩上京。参与会議(諸侯会議) 七卿都落ち
1864	元治1	56	『 <b>海軍問答書</b> 』起草 4月 <b>坂本龍馬</b> 沼山津に来訪 <b>井上毅</b> 、小楠との談話をまとめて『 <b>沼山対話</b> 』著す	禁門の変、第一次長州征伐
1865	慶応1	57	<b>元田永孚</b> 、小楠との談話をまとめ『 <b>沼山閑話</b> 』著す	
1866	慶応2	58	甥の横井佐平太・大平、米国へ留学『 <b>送別の語</b> 』	薩長同盟、15代将軍慶喜
1867	慶応3	59	9月『 <b>国是十二条</b> 』著す 11月松平春嶽に大政奉還後の政体について建言 12月朝廷より参与の招命あるも、熊本藩が固辞	11月坂本龍馬暗殺 12月大政奉還、王政復古の大号令 <b>明治維新</b>
1868	明治1	60	4月朝廷より再度の招命。徴士参与となる	3月五箇条の誓文 9月明治改元
1869	明治2	61	1月5日朝廷より帰宅途中暗殺される	版籍奉還、戊辰戦争終結

## 小楠の交友と実学党の系譜



## 門弟



矢印の大きさは関係の強さを表す